

(第17回千葉県ベンチャー企業経営者表彰)

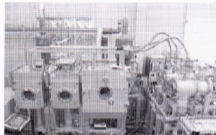
ひまわりベンチャー育成基金賞

潤田ナノ技研社長

潤田 英嗣氏

【企業メモ】

潤田ナノ技研(千葉県成田市、潤田英嗣社長、0476・27・3993)は、真空冶金(親アルバック)の金属ナノ粒子技術を引き継いで2004年に創業。常温で金属を成膜するエアロゾル化ガスアポキシオン(AGD)法装置などを製造する。研究機関や大学向けの実験機で多くの導入実績があり、今後は産業機の拡販に注力。エネルギー



分野で利用が拡大するアルコニア粉の高温成膜技術で特許を取得しており、飛躍が期待される企業だ。



◆ ◆ ◆
40歳で創業しまし

た。「真空冶金では入社以来、金属ナノ粒子の研究開発に携わった。04年に真空冶金が超微粒子事業から撤退する際に『30年以上続いた技術を残したい』という思いで特許を引き継いで創業した」

◆ ◆ ◆
独自のガス成膜技術でセラミックスを高速成膜できるAGD法装置機

エネルギー分野で連携拡大

術が強みです。

「金属ナノ粒子をガスで高速噴射し、基板に成膜する装置を製造している。中でもAGD法と呼ばれる装置は、通常1000度C以上で行う成膜を常温で実現する。非加熱性基板への成膜や、ナノ組織の構造を保ったままの成膜が可能だ。11年に新エネルギー産業技術総合開発機構の助成で開発したAGD法の量産装置は300㎡のFPGA(膜厚10μm)を1日6枚処理でき、スパッタ法に比べ大幅に成膜を短縮した」

「期待する市場は、
「エネルギー分野は、固体電解質原料電池(SOFC)のジルニア成膜や電池正極材料の成膜、大面積キャパシタ膜の形成と用途は幅広い。連携先を増やし、装置の販売を本格化する」

「目標とする経営者は、
「アルバック元社長の故・林主税さん。経営者でありながら技術者でありつづけた手前人のような人。入社直後、国の林研微粒子プロジェクトのメンバーに選んでもらったことが私の原動力。『技術者は営業と経営ができて一人前』という言葉をかみしめている」